

○再びヒトリシズカのおしべについて (前川文夫) Fumio MAEKAWA: Further notes on the stamens of *Chloranthus japonicus*.

昨年の本誌10月号で触れた岡山県阿哲郡神郷村で古屋野寛氏が採集、おしべの中央の花糸に葯を伴う変異を撮影された株が今年は花をつけたので一言触れておきたい。

9本の茎が出た内で4本が花序を持った。全部で29花の内、正常の二葯のもの僅かに1花、なお一方の葯が退化したが正常に近いものが1花計2花(図中●印)で、残りのうち3本の花糸に葯のある、いわゆる古型が7花(図中○印)、中央花糸に痕跡の葯の残るもの2花(図中▲印)、計9花が古い型を示した。花序の下方のものに古い型

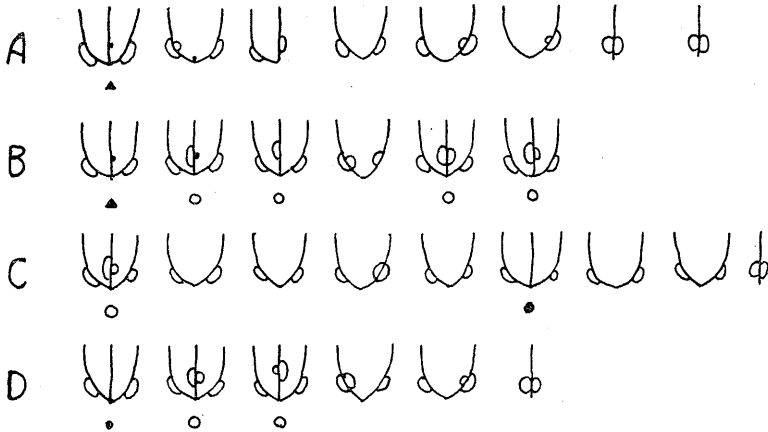


Fig. 1. Anthers of *Chloranthus japonicus*, collected at Shingô, Okayama by Mr. Koyano. H. It is distinct by having central filaments with anthers. 古屋野寛氏が岡山県神郷で採集東京で今春開花したヒトリシズカの花全部の模式図。4本の花序で左から右へ、花序の下から上へ進んである。●印は正常。▲印は中央花糸に葯の痕跡のあるもの。○印は3本の花糸に葯を持つ古型の花。(前川原図)

が出易く、花序の上部では花糸2本或は1本のみとなったものが3本もある。残りの1本はほぼ花序全体に3本の花糸全部に葯をつける傾向が強く、これは昨年の前報にのせた古屋野氏の写真の株と同じ傾向である。念のために模式図をのせるが、この図は花序のすべての花を下から上へ順に進んだものを左から右へ書き流してある。一つの根茎からつづいている株でこんなに傾向の差があるのは興味がある。なおこれだけ古い型の花をつけるとすれば一応区別してムカシヒトリシズカと呼んでおいて今後の傾向に注目したい。

(東京農大育種研究所)